

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

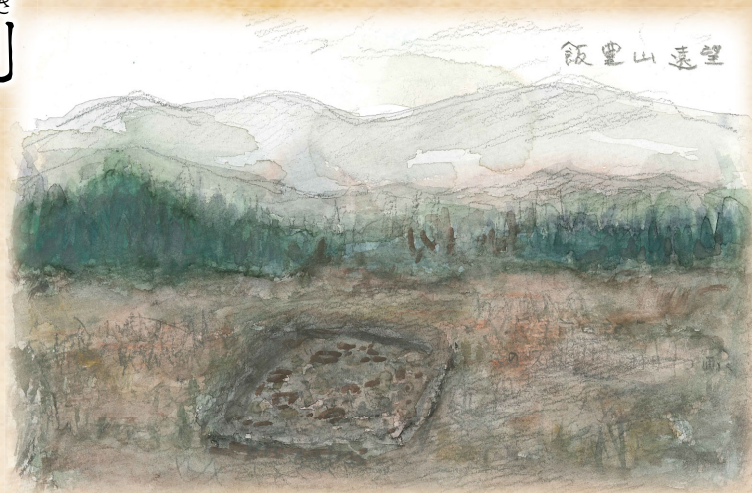
その32

文：折笠 匡^{ただす}さん

入小屋の追剥^{おいはぎ}

縄沢・甲石の横沢入口の赤い大橋から北に向かって登って行くと、入山^{いりやま}（奥の方にある山の意味）というところがあります。大昔、そこに追剥（山賊）が住んでいて、往還の旅人の物品・衣装などを強奪していました。

文禄元年（1593）、一人の旅僧がここを通過しようとしたところ、追剥が現れ、衣装を奪わんと近づいてきました。しかし、僧は驚かず、そばの石の上に端座して、念仏を唱えました。奇しくも追剥は手足を縛られたようになり、怒って秘術を尽くしたが動けず、恐怖の心が生じ、汗ばかり出て総身を濡らすばかり。その時、僧は「汝、どうしてそうなったのか、分かっているのか」と叫びました。その声は雷^{とどろき}の如く響いたので、追剥は苦しみに耐えきれず、小声になって、「許したまえ」と頭を下げました。すると、僧は「すべて天地の間に得難い^{かしやく}ものは人身である。それなのに、お前は追剥をはたらいて一生を間違った。死んで地獄に落ちて呵責の苦しみを味わわないと解らんのか」と言いました。その言葉に、追剥は一言もなく屈服しました。僧に「これからお前の家に泊まりたい。案内したまえ」と言われ、追剥は我に返って体が元通り動くようになりました。



入小屋の追剥の屋敷跡とおぼしき場所（絵：折笠匡さん）



まもなく入山の小屋に行って、僧が終夜説法し、教導したので、追剥は信心を肝に銘じ、僧に向かって「これから先、どうして生計を立てていけばよいのでしょうか」と問いました。僧は「お前はまだ壮年なので、耕作に力を入れて働きなさい」と言うと、あくる朝、去って行きました。

そこで、追剥は本村の肝煎に今までのことを話して道具を譲ってもらい、新たに土地を開墾し、自立できるようになりました。

今月の表紙

ふるさとまつりで行われる恒例の「桐ゲタ投げ全国大会」より。町の特産品である桐ゲタをモチーフに作られた特製の桐ゲタを遠くに飛ばす競技で、表紙は今年のチャンピオン、上野貴章さん。ハンマー投げの要領で約13mの桐ゲタを回して投げ、10秒77秒の記録で見事優勝しました！（7ページに関連記事）



お知らせ

昨年12月から運用を開始した西会津町の公式フェイスブック「なじよな町、西会津。」と、公式ホームページのQRコードを掲載します。

皆さん、この機会にぜひご覧ください。

